

2021年3月期 決算補足資料

- | | |
|------------------------|-------|
| 1. 決算概観（連結） | P.1 |
| 2. 業績のポイント | P.2 |
| 3. 業績の状況 | P.3 |
| 4. 主要製品の売上状況 | P.4 |
| 5. 研究開発費・設備投資・減価償却費の状況 | P.5 |
| 6. 開発品一覧 | P.6～7 |

【参考資料】

- | | |
|--------------------|---------|
| 7. 2022年3月期 連結業績予想 | P.9 |
| 8. 損益計算書の概要（連結） | P.10～11 |
| 9. 貸借対照表の概要（連結） | P.12 |
| 10. 主な業績項目の推移（連結） | P.13 |
| 11. 杏林製薬（単体）資料 | P.14～17 |

2021年5月11日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。



2021年3月期 決算概観（連結）

(単位：百万円)	18年3月期	19年3月期	20年3月期	21年3月期	増減率	22年3月期※ (予想)	増減率※
売上高	110,640	113,620	109,983	102,904	-6.4%	102,600	-
営業利益	8,822	8,972	7,503	5,786	-22.9%	3,300	-
経常利益	9,345	9,438	8,175	6,447	-21.1%	3,800	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,574	6,869	6,149	6,130	-0.3%	2,700	-
1株当たり当期純利益(円)	89.28円	104.68円	107.35円	106.99円	-0.3%	47.12円	-
総資産	196,736	173,034	171,160	167,126	-2.4%	-	-
純資産	163,297	123,395	122,710	124,661	+1.6%	-	-

2021年3月期 連結業績（実績）

【売上高】薬価改定及び新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により医療用医薬品市場はマイナス成長で推移し、主力製品「デザレックス」「ヘオーバ」は伸長したものの、新医薬品等（国内）は前年を下回る実績となりました。一方、モメタゾン(AG)の伸長及びイミダフェナシン(AG)の寄与により後発医薬品の売り上げは増加しましたが、全体の売上高は前期比70億79百万円減（前期比6.4%減）の1,029億04百万円となりました。

【利益】売り上げの減少、売上原価率の上昇により売上総利益が前期に対して54億04百万円減少しました。他方、販売費及び一般管理費はコスト削減への取り組み及びMR活動の自粛等により、前期に対して36億87百万円減少（内、研究開発費12億83百万円減）しましたが、営業利益は57億86百万円と前期比17億17百万円の減益（前期比22.9%減）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、債務免除益等を含む19億29百万円を特別利益として計上したことから61億30百万円（前期比0.3%減）となりました。

2022年3月期 連結業績（予想）

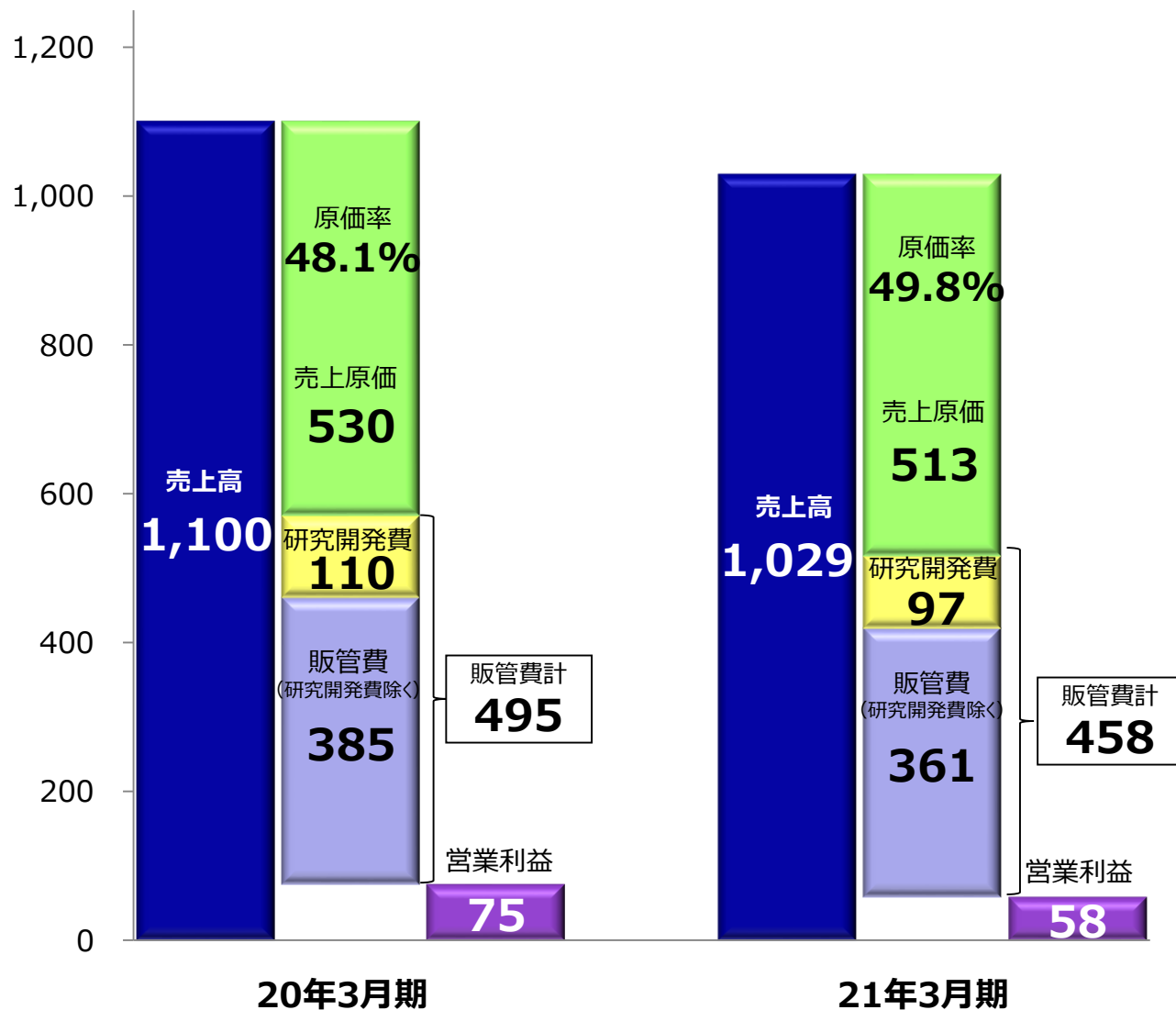
【売上高・利益】売上高は、新医薬品等（国内）については主力製品は伸長するものの薬価改定の影響により長期収載品の大幅な売上減少を見込みます。また後発医薬品については、主要製品の伸長及び2021年度収載の追補品の寄与により売り上げの増加が予想されます。利益面では、売上原価率の上昇による売上総利益の減少を見込みます。販売費及び一般管理費は、新薬の販売権取得に伴う契約一時金を計上するもののコスト削減により減少が予想されます。以上により、2022年3月期の連結業績は、売上高1,026億円、営業利益33億円、親会社株主に帰属する当期純利益27億円を予想します。

なお新型コロナウイルス感染の拡大による業績への影響は一定程度織り込んでおりますが、未だ不透明な環境変化が予想されることから、今後の動向に注視するとともに、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」等を適用予定であり、2022年3月期連結業績予想は、当該変更を織り込んだ数値となっております。そのため、当該基準等適用前の2021年3月期実績に対する増減率は記載しておりません。

2021年3月期 業績のポイント（対前期）

(単位：億円)



【ポイント】

- ▶ 売上高は前期比71億円減少
- ▶ 売上原価率は1.7ポイント上昇
 - ・薬価改定の影響
 - ・後発医薬品売上の比率上昇
- 売上総利益は前期比54億円減少
- ▶ 販管費は前期比37億円減少
 - ・研究開発費は13億円減少
 - ・販管費（研究開発費除く）は24億円減少
- 営業利益は前期比17億円減少

2021年3月期 業績の状況

				(対前期)	(対予想)
					2020年11月5日発表
(単位：億円)	20年3月期	21年3月期	対前期		
売上高	1,100	1,029	-71	(-71)	(-51)
新医薬品等 (国内)	775	697	-78	(-78)	(-41)
新医薬品 (海外)	15	10	-5		
後発医薬品	310	322	+12		
営業利益	75	58	-17	(-17)	(-20)
経常利益	82	64	-18		
親会社株主に帰属する 当期純利益	61	61	0		
■売上高	1,029億円			(-71)	(-51)
●新医薬品等 (国内)	697億円			(-78)	(-41)
	20年3月期	21年3月期			
・フルティフォーム	146	⇒ 133	(-13)	(-12)	
・デザレックス	26	⇒ 57	(+31)	(-18)	
・ベオーバ	43	⇒ 73	(+30)	(0)	
・ラスビック	11	⇒ 9	(-2)	(-9)	
・ペンタサ	133	⇒ 128	(-5)	(+3)	
・ウリス	58	⇒ 23	(-35)	(+1)	
・ナゾネックス	60	⇒ 28	(-32)	(+4)	
・キプレス	118	⇒ 83	(-35)	(+1)	
・ムコダイン	58	⇒ 33	(-25)	(0)	
●海外新医薬品	10億円			(-5)	(-1)
ガチフロキサシンの売上減少等					
●後発医薬品	322億円			(+12)	(-8)
ナゾネックスのAGの売上増加、ウリスのAG及び2021年3月期発売の追補品の売上が寄与					
■営業利益	58億円			(-17)	(-20)
◆営業利益率は5.6%と前期比1.2ポイント低下					
●原価率：前期比1.7ポイント上昇(48.1%⇒49.8%)					
【上昇要因】薬価改定、後発医薬品売上の比率上昇等					
【低下要因】原価低減の取り組み（原材料費の低減等）、新薬の売上増加					
●研究開発費率：前期比0.6ポイント低下(10.0%⇒9.4%)					
・研究開発費は13億円減少（110億円⇒97億円） 開発プロジェクトの進展及び開発中止					
●販管費率(研究開発費除く)：前期比0.1ポイント上昇(35.0%⇒35.1%)					
・24億円減少（385億円⇒361億円） 主に販売費、人件費及び一般経費の減少					
■親会社株主に帰属する 当期純利益	61億円			(0)	(-11)

2021年3月期 第1四半期連結累計期間より、報告セグメント（「医療用医薬品事業」「ヘルスケア事業」）を集約し、単一セグメントに変更しております。これに伴い、売上高の区分を変更し、従来の新医薬品(国内)とヘルスケア事業を合わせて「新医薬品等(国内)」といたしました。なお、「新医薬品(海外)」「後発医薬品」に変更はありません。

国立研究開発法人科学技術振興機構から借り入れていた長期借入金に対する返済義務の一部免除による債務免除益等を特別利益に計上

2021年3月期 主要製品の状況

(単位：億円)		17年3月期	18年3月期	19年3月期	20年3月期	21年3月期		22年3月期 (予想)
						実績	増減率 (%)	
新医薬品等 (国内)	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	101	119	131	146	133	-9.0%	139
	デザレックス (アレルギー性疾患治療薬)	10	49	37	26	57	+120.7%	72
	ベオーバ (自社販売分) (選択的β3アドレナリン受容体作動性過活動膀胱治療剤)	-	-	7	43	73	+70.2%	86
	ラスビック (ニューキノロン系抗菌剤)	-	-	-	11	9	-19.6%	28
	ペントサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	155	153	135	133	128	-4.3%	117
	ウリトス (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	75	72	66	58	23	-60.1%	10
	ナゾネックス (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	-	-	128	60	28	-54.0%	18
	キプレス (成人製剤) (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	177	83	62	53	39	-25.4%	33
	キプレス (小児製剤) (気管支喘息治療剤)	149	105	76	65	44	-33.0%	36
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	99	87	68	58	33	-43.4%	29
	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	22	22	22	24	21	-10.2%	22
ルビスタ (環境除菌・洗浄剤)	10	11	13	15	20	+34.9%	21	
後発 医薬品	モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	82	117	119	115	108	-6.1%	92
	モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	-	-	-	28	38	+37.0%	35
	イミダフェナシン錠「杏林」 (過活動膀胱治療剤)	-	-	-	-	7	-	7

研究開発費・設備投資・減価償却費の状況

(単位：百万円)	17年3月期	18年3月期	19年3月期	20年3月期	21年3月期		22年3月期 (予想)
					実績	増減率	
研究開発費	13,569	14,243	10,790	10,987	9,703	-11.7%	9,200
設備投資	3,051	2,885	2,306	3,590	4,307	+20.0%	4,500
減価償却費	3,619	3,644	2,940	3,221	3,564	+10.6%	3,900

設備投資の詳細 (実績／予想)

(単位：億円)	20年3月期	21年3月期 (実績)	22年3月期
工場設備	27	31	33
管理・販売設備	4	3	5
研究用設備	5	9	7

開発品一覧① (2021年5月11日現在)

PhⅢ ~ 発売

※前回 (2021年2月4日) からの変更点

開発段階		製品名/ 開発コード	適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
発売※ (21年3月)	—	ラスビック点滴静注 キット150mg/ KRP-AM1977Y	肺炎、肺膿瘍、慢性呼 吸器病変の二次感染	自社	下気道感染症治療に特化して開発した新規キノロン注射剤 1. 肺に高濃度分布し、呼吸器感染症の起炎菌に強い 抗菌力を示す 2. 好気性菌と嫌気性菌双方に有効、かつ1日1回投与が 可能 3. 誤嚥性肺炎、肺化膿症・肺膿瘍に対しても有効性が 確認された	
発売※ (21年4月)	—	ジムソ膀胱内注入液 50%/ KRP-116D	間質性膀胱炎	—	医療上の必要性の高い未承認薬・適用外薬に該当する 「ジメチルスルホキシド」	

※慢性咳嗽治療薬「ゲーファピキサントクエン酸塩」 MSD社と日本国内の販売に関する契約締結 (21年4月)

POCプロジェクト (Ph I ~ Ph II)

開発段階		製品名/ 開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph I (20年7月)	Ph I b/ II a (aTyr社:米国)	KRP-R120	間質性肺疾患 (肺サルコイドーシス)	aTyr社 (エイタイヤー)	融合タンパク製剤であり、Neuropilin-2 受容体(NRP2)に 結合することで過剰な免疫細胞の活性化を抑制する作用を 有し、ファースト・イン・クラスの治療薬として肺サルコイドーシス 等の炎症疾患への効果が期待される	
	Ph I ※ (21年4月)	KRP-A218	重症化リスクを有する ライノウイルス感染症		宿主分子を標的とし、体内におけるウイルス増殖を抑制する 抗ウイルス薬	

開発品一覧②（2021年5月11日現在）

導入品の状況

開発段階		製品名/ 開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph II (19年12月) あすか製薬	—	AKP-009	前立腺肥大症	あすか製薬	新規アンドロゲン受容体モジュレーター作用を有し、前立腺縮小作用に加えて排尿機能改善作用を併せ持つ、新しい前立腺肥大症治療薬として期待される	日本国内における共同開発及び販売等に関する契約を締結（20年9月）

導出品の状況

開発段階	製品名/ 開発コード	導出先	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
Ph I	FPR2作動薬プログラム	BMS社 (ブリストル・マイヤーズスクイブ)	非開示	自社	FPR2作動薬。主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す	BMS社とライセンス契約（15年12月）
Ph I	KRP-203	Priothera社 (プリオセラ)	—	自社	S1P受容体アゴニスト	本剤の開発・販売等に要する特許・データ等の知的財産及び原薬等を譲渡（20年9月）
非臨床	感音難聴開発化合物	Otonomy社 (オトミー)	感音難聴	自社	感音難聴を対象とした新規開発候補化合物	難聴等の耳科を対象とする全世界における開発、製造、販売に関する独占的権利を供与（20年8月） 杏林製薬は日本における販売権を留保 Otonomy社 開発コード：OTO-6XX

【参考資料】

2022年3月期 連結業績予想

(単位：百万円)	21年3月期 (実績)	22年3月期* (予想)	対前期	
			増減額	増減率 (%)
売上高	102,904	102,600	—	—
新医薬品等 (国内)	69,735	68,600	—	—
新医薬品 (海外)	996	800	—	—
後発医薬品	32,172	33,100	—	—
営業利益	5,786	3,300	−2,486	−43.0%
経常利益	6,447	3,800	−2,647	−41.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,130	2,700	−3,430	−56.0%

※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」等を適用予定であり、2022年3月期連結業績予想は、当該変更を織り込んだ数値となっております。

損益計算書の概要（連結）－①

(単位：百万円)	20年3月期		21年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	増減率	前期差額
売上高	109,983	100.0%	102,904	100.0%	-6.4%	-7,079
新医薬品等（国内）	77,535	70.5%	69,735	67.8%	-10.1%	-7,800
新医薬品（海外）	1,490	1.4%	996	1.0%	-33.2%	-494
後発医薬品	30,957	28.1%	32,172	31.3%	+3.9%	+1,215

<連結子会社及び持分法適用会社について>

連結子会社5社： 杏林製薬(株)
 Kyorin Europe GmbH
 ActivX Biosciences, Inc.
 キョーリン リメディオ(株)
 キョーリン製薬グループ工場(株)

持分法適用会社1社：日本理化学薬品(株)

<当期のポイント：対前期>

(対前期)

■売上高 **102,904百万円** (-7,079百万円)

●新医薬品等（国内） **69,735百万円** (-7,800百万円)

(億円)	20年3月期	21年3月期	
・フルティフォーム	146	⇒ 133	(-13)
・デザレックス	26	⇒ 57	(+31)
・ベオーバ	43	⇒ 73	(+30)
・ラスビック	11	⇒ 9	(-2)
・ペンタサ	133	⇒ 128	(-5)
・ウリトス	58	⇒ 23	(-35)
・ナゾネックス	60	⇒ 28	(-32)
・キプレス	118	⇒ 83	(-35)
・ムコダイン	58	⇒ 33	(-25)

●新医薬品（海外） **996百万円** (-494百万円)

・ガチフロキサシンの売上減少等

●後発医薬品 **32,172百万円** (+1,215百万円)

・ナゾネックスのAGの伸長、ウリトスのAG及び2021年3月期発売の追補品等が売上に寄与

損益計算書の概要（連結）－②

(単位：百万円)	20年3月期		21年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	増減率	前期差額
売上高	109,983	100.0%	102,904	100.0%	-6.4%	-7,079
売上原価	52,950	48.1%	51,276	49.8%	-3.2%	-1,674
売上総利益	57,032	51.9%	51,627	50.2%	-9.5%	-5,404
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	49,528 (10,987)	45.0% (10.0%)	45,841 (9,703)	44.5% (9.4%)	-7.4% (-11.7%)	-3,687 (-1,283)
営業利益	7,503	6.8%	5,786	5.6%	-22.9%	-1,717
営業外収益	801	0.7%	798	0.8%	-0.3%	-2
営業外費用	128	0.1%	137	0.1%	+6.8%	+8
経常利益	8,175	7.4%	6,447	6.3%	-21.1%	-1,728
特別利益	123	0.1%	1,929	1.9%	+1458.2%	+1,805
特別損失	43	0.0%	25	0.0%	-42.6%	-18
税金等調整前 当期純利益	8,255	7.5%	8,352	8.1%	+1.2%	+96
法人税・住民税 及び事業税	2,085	1.9%	1,847	1.8%	-11.4%	-238
法人税等調整額	20	0.0%	374	0.4%	-	+353
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,149	5.6%	6,130	6.0%	-0.3%	-19

<当期のポイント：対前期>

◆ **売上原価率：前期比1.7ポイント上昇**
(48.1%→49.8%)

- ・薬価改定
- ・後発医薬品売上の比率上昇

◆ **研究開発費率：前期比0.6ポイント低下**
(10.0%→9.4%)

- ・110億円→97億円
- 開発プロジェクトの進展及び開発中止

◆ **販管費率（研究開発費除く）：前期比0.1ポイント上昇**
(35.0%→35.1%)

- ・385億円→361億円（24億円減少）
- ・主に販売費、人件費及び一般経費の減少

■ **営業利益 5,786百万円（-1,717百万円）**
 ・営業利益率は5.6%と1.2ポイント低下

■ **親会社株主に帰属 6,130百万円（-19百万円）
 する当期純利益**

- ・債務免除益約11億円等を特別利益に計上

■ **配当 75円00銭/株（内、中間配当30円/株）**
配当性向71.1%

貸借対照表の概要（連結）

(単位：百万円)	20年3月期末	
	実績	構成比
流動資産	117,058	68.4%
現金及び預金	31,925	
受取手形及び売掛金	47,449	
有価証券	993	—
棚卸資産	33,283	
その他	3,406	
固定資産	54,102	31.6%
有形固定資産	22,721	
無形固定資産	3,332	—
投資その他	28,047	
資産合計	171,160	100.0%

21年3月期末		
実績	構成比	前期末増減
114,027	68.2%	-3,031
27,445		
40,446		
3,399	—	—
38,568		
4,166		
53,099	31.8%	-1,002
23,896		
3,785	—	—
25,417		
167,126	100.0%	-4,034

流動負債	31,328	18.3%
支払手形及び買掛金	9,776	—
その他流動負債	21,551	
固定負債	17,121	10.0%
負債合計	48,449	28.3%
株主資本	118,534	69.3%
その他の包括利益累計額	4,176	2.4%
その他有価証券評価差額金	6,922	
為替換算調整勘定	36	—
退職給付に係る調整累計額	-2,782	
純資産合計	122,710	71.7%
負債及び純資産合計	171,160	100.0%

27,407	16.4%	-3,920
6,985	—	—
20,422		
15,057	9.0%	-2,064
42,464	25.4%	-5,985
120,339	72.0%	+1,804
4,322	2.6%	+146
6,639		
-40	—	—
-2,275		
124,661	74.6%	+1,951
167,126	100.0%	-4,034

<当期のポイント>

(対前期末)

■流動資産：3,031百万円減

- ・現金及び預金の減少 (-4,480百万円)
- ・受取手形及び売掛金の減少 (-7,002百万円)
- ・有価証券の増加 (+2,406百万円)
- ・棚卸資産の増加 (+5,284百万円)
- ・その他の増加 (+760百万円)

■固定資産：1,002百万円減

- ・有形固定資産の増加 (+1,174百万円)
- ・無形固定資産の増加 (+452百万円)
- ・投資その他の減少 (-2,630百万円)

■流動負債：3,920百万円減

- ・支払手形及び買掛金の減少 (-2,791百万円)
- ・その他流動負債の減少 (-1,129百万円)

■固定負債：2,064百万円減

主な業績項目の推移（連結）

(単位：百万円)	17年3月期	18年3月期	19年3月期	20年3月期	21年3月期	22年3月期*1 (予想)
売上高 (海外売上)	115,373 (764)	110,640 (3,339)	113,620 (830)	109,983 (1,490)	102,904 (996)	102,600 (800)
売上原価 (売上原価率) %	50,847 (44.1%)	49,064 (44.3%)	56,210 (49.5%)	52,950 (48.1%)	51,276 (49.8%)	—
販売費及び一般管理費 (販管费率) %	54,113 (46.9%)	52,753 (47.7%)	48,436 (42.6%)	49,528 (45.0%)	45,841 (44.5%)	—
うち研究開発費 (研究開発费率) %	13,569 (11.8%)	14,243 (12.9%)	10,790 (9.5%)	10,987 (10.0%)	9,703 (9.4%)	9,200 (9.0%)
営業利益 (営業利益率) %	10,413 (9.0%)	8,822 (8.0%)	8,972 (7.9%)	7,503 (6.8%)	5,786 (5.6%)	3,300 (3.2%)
経常利益 (経常利益率) %	10,874 (9.4%)	9,345 (8.4%)	9,438 (8.3%)	8,175 (7.4%)	6,447 (6.3%)	3,800 (3.7%)
当期純利益 (当期純利益率) %	7,305 (6.3%)	6,574 (5.9%)	6,869 (6.0%)	6,149 (5.6%)	6,130 (6.0%)	2,700 (2.6%)
一株当たり利益 (円)	99.45円	89.28円	104.68円	107.35円	106.99円	47.12円
資本金	700	700	700	700	700	—
総資産	192,668	196,736	173,034	171,160	167,126	—
株主資本	152,585	155,489	116,744	118,534	120,339	—
純資産	157,837	163,297	123,395	122,710	124,661	—
一株当たり純資産 (円)	2,146.83円	2,214.13円	2,154.05円	2,142.07円	2,175.52円	—
自己資本利益率 %	4.6%	4.1%	4.8%	5.0%	5.0%	—
自己資本比率 %	81.9%	83.0%	71.3%	71.7%	74.6%	—
人員 (人)	2,382人	2,348人	2,297人	2,271人	2,243人	—
設備投資	3,051	2,885	2,306	3,590	4,307	4,500
減価償却費	3,619	3,644	2,940	3,221	3,564	3,900

税効果会計に係る会計基準一部改正を2018年3月期より適用しております。

*1 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」等を適用予定であり、2022年3月期連結業績予想は、当該変更を織り込んだ数値となっております。

損益計算書の概要：杏林製薬－①

(単位：百万円)	20年3月期		21年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	増減率	前期差額
売上高	96,336	100.0%	89,674	100.0%	-6.9%	-6,662
新医薬品等（国内）	74,625	77.5%	67,548	75.3%	-9.5%	-7,076
新医薬品（海外）	1,260	1.3%	793	0.9%	-37.1%	-467
後発医薬品	20,450	21.2%	21,332	23.8%	+4.3%	+882

<当期のポイント：対前期>

(対前期)

■ **売上高** **89,674百万円** (-6,662百万円)

● **新医薬品等（国内）** **67,548百万円** (-7,076百万円)

(億円)	20年3月期	21年3月期	
・フルティフォーム	146	⇒ 133	(-13)
・デザレックス	26	⇒ 57	(+31)
・ベオーバ	43	⇒ 73	(+30)
・ラスビック	11	⇒ 9	(-2)
・ペンタサ	133	⇒ 128	(-5)
・ウリトス	58	⇒ 23	(-35)
・ナゾネックス	60	⇒ 28	(-32)
・キプレス	118	⇒ 83	(-35)
・ムコダイン	58	⇒ 33	(-25)

● **新医薬品（海外）** **793百万円** (-467百万円)

・ガチフロキサシンの売上減少等

● **後発医薬品** **21,332百万円** (+882百万円)

・ナゾネックスのAGの伸長及びウリトスのAGが売上に寄与

損益計算書の概要：杏林製薬－②

(単位：百万円)	20年3月期		21年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	増減率	前期差額
売上高	96,336	100.0%	89,674	100.0%	-6.9%	-6,662
売上原価	47,339	49.1%	44,922	50.1%	-5.1%	-2,417
売上総利益	48,996	50.9%	44,751	49.9%	-8.7%	-4,245
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	44,675 (10,038)	46.4% (10.4%)	41,190 (8,719)	45.9% (9.7%)	-7.8% (-13.1%)	-3,484 (-1,319)
営業利益	4,321	4.5%	3,561	4.0%	-17.6%	-760
営業外収益	1,093	1.1%	1,077	1.2%	-1.4%	-15
営業外費用	74	0.1%	92	0.1%	+24.4%	+18
経常利益	5,340	5.5%	4,546	5.1%	-14.9%	-793
特別利益	—	—	1,929	2.2%	—	+1,929
特別損失	61	0.1%	9	0.0%	-84.7%	-52
税金等調整前 当期純利益	5,278	5.5%	6,466	7.2%	+22.5%	+1,187
法人税・住民税 及び事業税	1,273	1.3%	1,206	1.3%	-5.3%	-67
法人税等調整額	7	0.0%	445	0.5%	—	+437
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,996	4.1%	4,814	5.4%	+20.5%	+817

<当期のポイント：対前期>

- ◆ **売上原価率：前期比 1.0ポイント上昇**
(49.1%→50.1%)
 (上昇要因) 薬価改定
 (低下要因) 原価率低減の取り組み(原材料費の低減等)
 新薬の売上増加
- ◆ **研究開発費率：前期比 0.7ポイント低下**
(10.4%→ 9.7%)
 ・100億円→87億円
 開発プロジェクトの進展及び開発中止
- ◆ **販管費率(研究開発費除く)：前期比0.2ポイント上昇**
(36.0%→36.2%)
 ・346億円→325億円(21億円減少)
 コスト削減及び営業自粛による販売費及び一般経費の減少
- **営業利益 3,561百万円 (-760百万円)**
- **当期純利益 4,814百万円 (+817百万円)**
 ・債務免除益約11億円等を特別利益に計上

貸借対照表の概要：杏林製薬

(単位：百万円)	20年3月期末	
	実績	構成比
流動資産	121,234	75.5%
現金及び預金	18,323	
売掛金	42,831	
有価証券	993	—
棚卸資産	26,927	
その他	32,157	
固定資産	39,336	24.5%
有形固定資産	7,328	
無形固定資産	2,741	—
投資その他	29,265	
資産合計	160,570	100.0%

流動負債	27,730	17.3%
買掛金	10,294	
その他流動負債	17,436	—
固定負債	13,433	8.4%
負債合計	41,164	25.6%
株主資本	112,525	70.1%
評価・換算差額等	6,880	4.3%
純資産合計	119,405	74.4%
負債及び純資産合計	160,570	100.0%

21年3月期末		
実績	構成比	前期末増減
119,598	76.4%	-1,635
16,983		
36,182		
3,399	—	—
29,609		
33,422		
37,029	23.6%	-2,306
7,213		
3,080	—	—
26,734		
156,628	100.0%	-3,942

23,789	15.2%	-3,941
6,597		
17,192	—	—
12,417	7.9%	-1,015
36,207	23.1%	-4,957
113,848	72.7%	+1,323
6,572	4.2%	-308
120,420	76.9%	+1,015
156,628	100.0%	-3,942

<当期のポイント> (対前期末)

■ 流動資産：1,635百万円減

- ・現金及び預金の減少 (-1,340百万円)
- ・売掛金の減少 (-6,648百万円)
- ・有価証券の増加 (+2,406百万円)
- ・棚卸資産の増加 (+2,681百万円)
- ・その他の増加 (+1,264百万円)

■ 固定資産：2,306百万円減

- ・有形固定資産の減少 (-114百万円)
- ・無形固定資産の増加 (+339百万円)
- ・投資その他の減少 (-2,531百万円)

■ 流動負債：3,941百万円減

- ・買掛金の減少 (-3,696百万円)
- ・その他の減少 (-244百万円)

■ 固定負債：1,015百万円減

- 長期借入金の減少 (-1,277百万円)

主な業績項目の推移：杏林製薬

(単位：百万円)	17年3月期	18年3月期	19年3月期	20年3月期	21年3月期	22年3月期※1 (予想)
売上高 (海外売上)	100,022 (528)	97,459 (3,115)	99,736 (613)	96,336 (1,260)	89,674 (793)	89,800 (600)
売上原価 (売上原価率) %	43,503 (43.5%)	42,885 (44.0%)	50,443 (50.6%)	47,339 (49.1%)	44,922 (50.1%)	—
販売費及び一般管理費 (販管費率) %	49,714 (49.7%)	48,645 (49.9%)	43,905 (44.0%)	44,675 (46.4%)	41,190 (45.9%)	—
うち研究開発費 (研究開発費率) %	12,785 (12.8%)	13,158 (13.5%)	9,569 (9.6%)	10,038 (10.4%)	8,719 (9.7%)	7,800 (8.7%)
営業利益 (営業利益率) %	6,803 (6.8%)	5,928 (6.1%)	5,387 (5.4%)	4,321 (4.5%)	3,561 (4.0%)	1,300 (1.4%)
経常利益 (経常利益率) %	7,396 (7.4%)	6,608 (6.8%)	6,121 (6.1%)	5,340 (5.5%)	4,546 (5.1%)	2,000 (2.2%)
当期純利益 (当期純利益率) %	4,454 (4.5%)	4,637 (4.8%)	4,389 (4.4%)	3,996 (4.1%)	4,814 (5.4%)	1,500 (1.7%)
一株当たり利益(円)	59.98円	62.45円	59.10円	53.82円	64.82円	—
資本金	4,317	4,317	4,317	4,317	4,317	—
総資産	149,382	151,622	161,986	160,570	156,628	—
株主資本	117,744	118,595	112,464	112,525	113,848	—
純資産	125,310	128,614	121,320	119,405	120,420	—
一株当たり純資産 (円)	1,687.28円	1,731.76円	1,633.55円	1,607.77円	1,621.43円	—
自己資本利益率 %	3.5%	3.7%	3.5%	3.3%	4.0%	—
自己資本比率 %	83.9%	84.8%	74.9%	74.4%	76.9%	—
人員 (人)	1,687人	1,673人	1,567人	1,502人	1,471人	—
設備投資	905	815	599	441	732	700
減価償却費	2,143	1,942	1,183	1,337	1,391	1,500

税効果会計に係る会計基準一部改正を2018年3月期より適用しております。

※1 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」等を適用予定であり、2022年3月期連結業績予想は、当該変更を織り込んだ数値となっております。

■ 将来見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。